

ギャラリー・ラ・ファイエットの新店舗がシャンゼリゼ通りにオープン



3月27日（水）、パリ8区にあるシャンリゼ通り（Avenue des Champs-Élysées）に大型商業施設「レ・ギャラリー・ラ・ファイエット（Les Galeries Lafayette）」の新店舗がオープンしました。

フランス国内の店舗としては58番目になります。

「世界で最も美しい」シャンゼリゼ通り

パリのシンボルであるシャンゼリゼ通りは、凱旋門（l'Arc de triomphe de l'Étoile）のあるシャルル・ド・ゴール広場（Place Charles de Gaulle）から、コンコルド広場（Place de la Concorde）まで約3キロの長さを誇る大通りです。

こちらには「シャネル (Chanel)」、「クリスチャン・ディオール (Christian Dior)」などの高級ブティック、「ピエール・エルメ (Pierre Hermé)」などのチョコレート専門店、また老舗のカフェやレストランに加えて、最近では「アップル (Apple)」などが軒を連ねるパリのシンボルの一つです。

地価は1平方メートルあたり約179万円 (1万4000ユーロ) で、これは東京・銀座地区の約140万円 (1万1200ユーロ) よりも高額です ([Main Streets Across the World 2018](#), Cushman & Wakefield 1ユーロ = 124円換算)。

言わずもがな、観光の名所

毎日、各店舗を訪れる顧客の延べ人数は30万人にのぼり、このうち40%を観光客が占めています (『ル・パリジャン紙』によるデータ)。

最近では、シャンゼリゼの魅力を維持するために毎月1回車道を歩行者に開放したり、無料Wi-Fiを全エリアに導入するなどの取り組みも行われています。

老舗デパート、ラ・ファイエットも仲間入り

シャンゼリゼ通りに今回仲間入りしたのは、19世紀末以来の歴史をもつデパート「レ・ギャルリー・ラ・ファイエット」です。

新店舗は4階建てでファッションブランドから飲食店、サービス業まで650の店舗が集まります。一日に見込まれる顧客数は1万~1万5000人ほどです。

第一の特徴は、ファッションフロアが「男女混合 (mixte)」であること。ファッション界では伝統的な男女の境界を越え、新時代を築くという思いがこめられています。

第二の特徴は、「個人スタイリスト」の仕組みです。これは、訪問客ひとりひとりに対して、アドバイスを提供しながら全身のコーディネートをお手伝いするというものです。

黄色いベスト運動の影響が心配される中・・・

シャンゼリゼ通りでは、2018年11月から毎週行われている黄色いベスト運動 (Manifestation /

Mouvement des Gilets jaunes) のデモが行われ、これまでに複数回の暴動が発生しました。

特に3月16日(土)の暴動では、老舗のブラスリー「ル・フーケツツ(Le Fouquet's)」や銀行、通り沿いのキオスクなどが放火され、商店にも甚大な被害が出ました。

経済大臣も祝福

このような中でも新店舗をオープンできたことに、ラ・ファイエット側だけでなく仏政府もほっと一安心のようです。

特にブリュノ・ル・メール経済・財務大臣(Bruno Le Maire, Ministre de l'Économie et des Finances)は、26日のセレモニーに出席し開店を祝福しました。

パリ観光の新たなランドマーク、皆さんも訪れてみてはいかがでしょうか(くれぐれも、デモにはご用心を)。

執筆あお

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円~受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

